

# 南那須地域医療を守る会ニュース

No 5  
2013. 4. 1  
代表 米山正人  
028-645-5058



## これからの地域医療は 医療・介護・福祉の垣根を越えた取り組みを —— 各分野の専門家パネル討論会 ——

人口減少と高齢化が進行する中、これからの地域医療は、介護や福祉との垣根を越えた取り組みが必要と考え、昨年11月当会（南那須地域医療を守る会）主催で、各分野の専門家が意見を交換するパネル討論会を開催しました。

パネラーとして関口忠司氏（那須南病院長）、本間真二郎氏（七合診療所長）、横山孝子氏（訪問看護管理者）、稲葉節子氏（地域包括支援センター保健師）、郡司正幸氏（那珂川町健康福祉課長）の各氏に出席いただきました。以下、コ―ディネーターをしていたいたいた網野榮氏（那須烏山市健康福祉課長）に寄稿していただきました。

「少子高齢化の急速な進展により、介護や医療が必要となっても、住み慣れた地域



で健やかに暮らし続けることができるよう、地域の医療、福祉、介護の関係機関と連携しながら、在宅療養の体制づくりは急務である。

日本は『国民皆保険』のもと、高水準の医療・介護制度を確立し、世界に冠たる長寿国になった。しかし、入院医療・施設介

護が中心であり、また、自宅で死亡する人（看取りの場所）の割合は、昭和25年の80%から現在は12%にまで低下した。反面、国民の60%が自宅での療養・介護を望んでいるのが現状である。

今回のパネル討論会を通して、南那須地域には何があり、何が足りないのか、在宅医療・介護を考える上で非常に有意義であった。」

### 益子町の救急医療を考える

—— 市民による市民のための「地域医療」を目指して ——

県主催の地域医療の討論会が2月益子町で開催されましたので参加してきました。

宮崎県延岡市の「宮崎県北地域医療を考える会」事務局長の福田政憲氏の基調講演は、『延岡市の地域医療を守る条例』が、全国に先立ち制定されるまでの経過から現在の活動状況について講演されました。

**第4回 定期総会と映画会のご案内**  
◆ 日時 6月9日（日）午後1時半より  
◆ 場所 烏山公民館2階

〈総会スケジュール〉

- 1 時30分～3 時30分 映画「医す者として」
- 3 時30分～4 時 講演・鈴木正義氏（制作監督）
- 4 時～ 総会

（映画と講演は会員以外の方も自由に参加できます）

条例は、地域医療の根幹としての「市の責務」、「市民の責務」、「医療機関の責務」を明確にすることにより、相互理解による地域社会づくり目指している延岡市のまちづくりを垣間見ることができました。特に、市民の責務についての周知活動の大切さを強調されていました。

その後、パネラーの芳賀赤十字病院長、自治医科大学付属病院救急救命センター長、救急医療を受診した住民の方々により、救急医療の現状と要望等が討論されました。中でも、救命センターに安易に受診される患者が多い現状が報告され、重篤の救命に支障を及ぼすことになる警鐘がなされました。

### 映像と証言で綴る農村医療の戦後史——佐久総合病院の60年間の記録

#### 記録映画「医す者として」

「医者が出前したっていいじゃないか」

長野県の佐久総合病院は、戦後間もない頃から、周辺の農山村への「出張診療」や「全村健康管理」を全国に先駆けて行い、又、健康への啓蒙活動として「演劇」や「病院まつり」など、医療と福祉の垣根を越えた「高度専門医療と地域密着医療」の活動を展開してきました。

そうした病院のあらゆる取り組みをフィルムに記録し続けてきた院内映画部の貴重なフィルムが、当時を知る人々、現代の病院関係者らの証言とともに、未来に向けた映画としてよみがえりました——





### 那須南病院の職員紹介

その2



宮澤保春病院副院長  
勤務年数 16年



小林為音子副看護部長  
勤務年数 23年

\*出身地 足利市

\*趣味 クラシックギター、写真

\*那須南病院の良いところ

24時間救急対応をしているところ。救急輪番制とは言いつつ、当地域には当院しか病院がないため、365日当院が2次救急対応（必要なら入院が可能な救急対応）しています。当たり前のように感じられるかもしれませんが、当地域の人口規模ではこのような体制をとっている地域は少ないのではないのでしょうか？基本的に救急医療は不採算部門ですが、地域の方々の安心のために必要不可欠と思われれます。

\*出身地 大田原市

\*趣味 寝ること、食べること

\*那須南病院の良いところ

風光明媚なところと答えるのは気が引けますが・・・患者様に癒しの空間を提供するのも病院の大切な役割とするなら、外部環境も重要な要素となります。さて、病院で働いていると日々色々な事があります。思い出には楽しいことだけが残りますが日常は・・・そのような時は「仕事の中に苦しみを見つけた時こそ、人を成長させる力がある」という日野原重明先生の言葉が力を与えてくれています

### 「南那須地域医療を守る会」の活動に

「ご支援・ご協力をお願い致します。」

まだまだ不十分ですが、会員になられた方々の会費で、会の活動は支えられています。

ただ今、新年度の会員募集中です！

年会費  
1,000円

### 会の活動いろいろ

#### ● 病院周辺清掃活動

7月と11月、朝7時より那須南病院周辺の草むしりと清掃活動を実施しました。

関口院長をはじめ病院職員や多くのボランティアの皆様が一丸となって、草をむしったり、木の剪定をしたりして綺麗になった病院周辺を見るのは、スッキリして気持ちいいものでした。

今年度も年2回実施する予定です。是非ご参加願います。



2回実施した那須南病院周辺清掃活動

#### ● 病院内作品展示企画

病院内展示も各団体のご協力を頂き、早いもので3年目を迎えます。



いろいろな団体、個人の協力です。1ヶ月毎に展示を変更しています

「待ち時間、心が安らぎます。」「元気を頂きました」と患者さんの声！出展された方達からは、「又、展示して頂けるよう学ぶ意欲が出ました」などとそれぞれのお言葉を頂いております。

手作りの作品お持ちの方、サークル等是非ご協力下さい。

#### ● 福祉まつりでPR活動

那珂川町の福祉まつり（10月20日）と那須烏山市の健康福祉まつり（11月4日）に参加し、会のPRを行いました。

更に、救急救命士による「心肺蘇生法」と「AEDの使い方」の講習会を行いました。

会場には、小・中学生や家族連れなど多数集まり、積極的に救急救命士のご指導を受ける姿が見られました。

2011年に原因ウイルスが特定された「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」が、国内で報告されました。SFTSウイルスを持つ「マダニ」に咬まれることにより感染すると考えられています。

感染した場合、潜伏期間6日～14日を経て、38度以上の発熱と消化器系の症状（吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、食欲低下等）が出現します。この

### 「マダニ」にご注意



ほか、頭痛・筋肉痛・神経症状・リンパ節腫脹・呼吸器症状・出血症状なども認めることがあり、致死率は10～30%と考えられています。

治療は対処療法が中心で有効な治療法はありません。マダニは主に森林や草地などの屋外に生息しています。このような場所では、長袖の服、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出をなくしてマダニに咬まれないようすることが重要です。